

令和5年度

仙台フィンランド健康福祉センター「ウェルビーイングビジネス開発委託事業」

会社名 株式会社zero to one

受託業務名 対話型AI模擬患者開発プロジェクト

○開発の内容

背景

高齢化の進展や医療提供の多様化
医師コミュニケーション能力向上への期待
共用試験公的化の開始



AI模擬患者システムを大学の医学教育に用いることにより、
医療面接の質の向上と効率化をはかる

製品の仕組み

AI模擬患者システムでは、現状、次のことが可能である：

- システムが、医療面接の模擬患者役として、医師役の利用者の質問に対し応答する
- 医師役の利用者の入力とシステムの応答を音声で行う
- 面接内容が記録される



○ヒアリング/実証実験の結果

(利用者の声)

- 医療面接の型を学生が自ら学ぶツールとして、基本的に実施できる水準にある
- システムによる回答のタイムラグや一般的な言葉の認識精度の向上など、細かな点では対応が必要
- より多くの症例で利用してみたい

○今後の展開

より多くの症例に対応できるなど、システムの開発を行い、多くの場面でご活用いただけるように進めていきたい